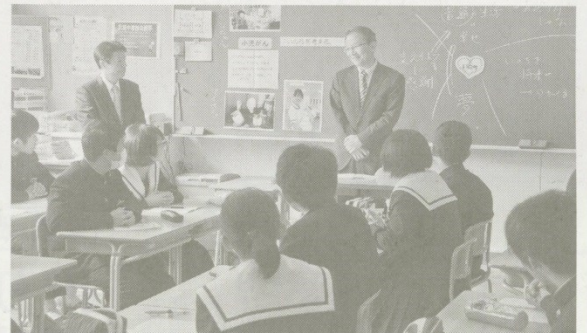


「いのちの授業」通じ 小児がん理解

NPOが押谷・昭和女子大大学院教授らとプロジェクト

中学生向け副教材作成

「いのちの授業を通して、命の大切さを実感させるとともに小児がんへの正しい理解を広めたい。そんな願いから、特定非営利活動(NPO)法人いのちをバトンタッチする会代表の鈴木中入さんは、押谷由夫・昭和女子大大学院教授など教育関係者や医療関係者とプロジェクトを立ち上げ、中学生向けの副教材を作成、4月から全国の中学校に無料で配布する。冊子と授業指導案、DVDで構成し、学校で授業をしながら内容を練り上げているところだ。道徳が「特別な教科」になる中、貴重な教材となりそうだ。副教材の内容と2月に愛知県小牧市立北里中学校(舟橋孝司校長)で行われた授業の様子を紹介する。



娘を小児がんで亡くした経験から命の尊さを語る鈴木さん(中央右)

お嫁さんの姿にして送り出した。次に紹介したのは、小児がんになり、小学6年生から中学2年生まで治療に専念した「マイさん」の物語。「世界中から病気がなくなる」こと。治療の影響で足の骨の一部が壊れるなど苦しきつらい日々を過ごしたが、多くの人の支えを受け、回復した後、大学の看護学に進み、看護師を目指している。夢は「難病と闘う子どもの役に立つこと」だ。現役は「当たり前前ではないと、私には元気を大切に、日々の生活を充実させるとは、活を充実させるとは、ういうことか」と尋ね、挙がった他、他者への感謝の気持ちや、命を大切にしたいのだと思える。2人の人生から命の尊さを見詰める。

「亡くなった少女」回復した体験

立 愛知・小牧市
北 里 中 道 徳

2人の人生から命の尊さを見詰め

鈴木さんは、娘の景子さんが小児がんを患い6歳で亡くなった経験を踏まえて、これまで命をテーマに講演や授業をしてきた。この取り組みや法人を立ち上げた経緯は書籍「6歳のお嫁さん 亡き娘から託された『いのちの授業』」(実業之日本社)に、景子さんと「6歳のおよめさん」(文庫)で写真入り

今回の副教材は、小学校で校長をしていながら置かれた状況を考えたいと語った上で、自分自身は何を大切にしたいと感じたか、「いのち」とは何を学びを終わらせてはならないと考えたか、生徒とのやりとりを振り返る。生徒からは「毎日学校に来られ、健康でいらなれることが嬉しい。命は、弱くも強くも感じたい」という発言があった。玉置教授は副教材で議論させた。

北里中学校では、道徳の時間にプロジェクトを進めた。トメンバリーの玉置崇・1年3組で授業をした。最初、景子さんの写真と山田貞二・愛知県教育委員会の委員が登壇。2人とも昨年「ケイコちゃん」の式で、愛知県の公立中

ここで物語に戻り、ケイコちゃんはお嫁さんが大好きで、あと数年が月命の命と知りながら、看護師さんの結婚が登壇。2人とも昨年「ケイコちゃん」の式で、愛知県の公立中

副教材は希望者に無料で配布する他、4月までに同会ホームページからダウンロードできるようにする。問い合わせ先は、inochi-npo@am7.airainet.jp



6さいのおよめさん
鈴木中入 文庫
景子 写真

中学校

山田指導主事は2年2組で授業を実施。生徒からの感想では、「お父さんです」と鈴木中入さんと同様に「当たり前前だと思っていた生活は、私もお嫁さんが幸せ

情報

【公開授業・研究会】

▶公益社団法人日本フィランソロピー協会・シンポジウム(3月19日午後1時30分)▷T K P 東京駅日本橋カンパレンスセンター(東京都中央区)▷主題「『総合的な学習の時間』で実践! お金から考える社会貢献学習」▷講演「人間力育成における利他と幸福の関係」(前野隆司・慶應義塾大学大学院教授)、「募金・寄付を核にした社会貢献学習」実践事例紹介、「チャリティーチャレンジ・プログラム(CCP)」紹介、パネル討論▷参加費 無料▷要事前申し込み▷TEL 03・5205・7580

【イベント】

▶子ども家庭教育フォーラム「臨床アドバイザー研究会・ワークショップ-目の日暮らしを支援提案型リスナー(傾聴者)をめざす(3月20・21日)▷【20日】ケース・援助」▷十分な後ろ盾のないもたちへの危機介入と援助(小宏・房総双葉学園施設長)【21日】▷「対人援助者も家族もいきい